

源三位賴政家集

上

特別
~4
8142
1





4  
8142  
1



源三位頼政家集上

春

立青

あはれなる実かきとてめでたしはれなるはかきとてはれ

かきとてはれ 後成の家十首全の内

冬も心なすれは山内岩屋の草下小春とてなる人

木形心と 實圃帰方合

あはれなる実かきとてめでたしはれなるはかきとてはれ

故郷霞 奇林苑舎

あはれなる実かきとてめでたしはれなるはかきとてはれ

霞





ひきまゝに大原山は横をすくまゝなりを煙るらん  
夜隔開路

春くせんをえとちけりお坂の宇とるおのゝあかりもわ  
おちり〜ころん

宇治路行末とてみ〜孫山城は未曉の園と夜こめけ  
海邊遊覧 大貳重家つ會

長谷庵を〜川を流るる〜流るる〜とみ〜と末れ松山  
に形〜ん

あきさの〜う〜あ〜み〜か〜と〜ん〜夜〜ゆ〜し〜れ〜海〜の  
晩霞 云通つ十そ〜と内

持ゆき〜し〜吏〜那〜の〜所〜野〜よ〜ま〜る〜れ〜野〜ら〜も〜み〜お〜夕〜雲〜が

鶯

古巢〜り〜あ〜木〜れ〜梅〜の〜初〜花〜よ〜と〜ら〜り〜と〜し〜る〜鶯〜れ〜色  
竹間残雪

吳竹の〜ま〜か〜く〜雪〜れ〜を〜消〜て〜り〜の〜い〜く〜や〜又〜ゆ〜る〜流〜ん  
池水浪静といふ事と宇林苑よて

春風やはぬい〜ら〜り〜あ〜と〜と〜ん〜と〜ま〜の〜と〜あ〜池〜の〜流〜る〜よ  
松上鶯

あゝ和布刈き〜あ〜ゆ〜ま〜の〜鶯〜の〜と〜木〜は〜ひ〜海〜の〜天〜の〜橋〜を  
毎朝鶯が〜ゆ〜ら〜と〜ま〜の〜と〜二〜条〜大〜宮〜よ〜て〜今

よみゆり〜よ  
目くす行ぬいれ庵とま〜と〜に〜中〜控〜く〜と〜鶯〜の〜色



りつ文服さる女房ふりつてひて町にさる  
可なりしきり程よあしきめり事や  
まきん久しうゆつさるしは二月のけ  
いあらしう梅乃枝丹此きてつうつう

さゆさひらしてとあち梅むれ初ふよ自さゆを  
うる

梅乃花らしあらんらうてはそれゆをうてゆむとあ  
らうさひしてゆればあひさうさうりける女れよ  
路しひはるさうりうてあさよりつがそ  
あう梅乃枝よ此きてつうつうしける  
ゆうとや梅とつうとさうんむらうめと親あひ

ゆ

つ孫て我思ひひくは梅乃枝よあぬ人さうあ梅むと  
隣家梅 清浦おれ家金

一枝とゆむさうりれ梅のむ白ひえくさちととれ  
新院清時里門裏よかろし梅は此大田  
よ作もゆり綾綺敷乃梅れ花らりりよゆ  
きつと小舎人ししてありよゆらうしける  
枝よ弦ひつきてあてまうつらきう

九重れ白し梅を花さくららうと思ひゆと  
あへ 兵部内侍

九重なるしみるれゆらあさむらぬむと

仕

三



幸こそる位ゆり一木と大宮乃清所よりあ  
されて次の春乃喜梅咲さゆり一とゆきて  
下ばよむさひはきさるゆり

青河り一とる宮よぬひかり梅とやとふ白梅と  
之ー 續人ー次

梅の花しーとあふ書とやとゆふとせ白梅つま  
梅花兼意中

東風名れ梅少く方ふととあきて白と園れゆ入つ  
二條院清時禁中柳垂

しーと記をゆきもつらる庭の面ままー緑らる玉柳か  
雨中柳 伊賀入る舎

春あ舟柳乃うとあーせてきつら流る内あふさ  
鶯

谷近ふ宿小来ゆや書れ里るれそしう始るる後  
梅契多春

一万代乃書まて吟ん宿の梅と今もふやのあさん  
豊為春友

各すてとけわれあ舟や書れまふはまらつ我ら  
待花似意

いもろとあふむらひきか我らとあ園れま  
きりられれちるらよ大内乃花人ともよと  
P程よいまーひらまぬあよつきてはらう



あはれ

思ひやきまゝあふと初花は咲き果ぬよらうと

かゝる

小作候

あふ事はいそぐらうせらるるあ花とととく初花は

南庭の花はくま大納言実房の女房あはれ

引具して大内ふらうりてはあふよらうと

うらうと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれ

九重の門までくると初花は咲き果ぬよらうと

南庭のむらうりよはあはれは門の女房あはれ

裏より身よらうりてあはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

百あはれ花よらうとあはれはあはれはあはれは

うらうと

花よらうと道よらうとあはれはあはれはあはれは

二月のあはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは



けんんんとして

春の宿乃梢れさるぬまにめつとくと花を

のち

んさるりらとやじきむこれ宿乃梢れなかり

花

らつ花乃ふ付てもるわじさあるん後のひて惜さ

春月 経盛の家文合

苦ぬまはよあててあつらつらつむらまれぬ月

花下月明 九条大夫妻家合

花ゆよあつとふぬまれ日とやそつとすつ月か

春のつま乃方ゆらよ花の笑らるとんく

東海や春乃む久よ行旅を笑わふ花小えとらつら  
人いあまうてむんゆりふは勝寺よて

咲ゆら梢やあつとあはれは宿乃花のたてま

白川あてんむむら

をれつと花乃下あやまらつとあふまはら

深山花

ち山木れを梢とを尺くはら梅ハ花よあつとれは

山さつとあむらぬと自中乃あつとあつとあつと

とあつとあつとあつとあつとあつとあつと

えをれんあつとあつとあつと

梅さく梢とあつとあつとあつとあつとあつと

止

つた



うら

花はさく風は初えてうきうきとわきて清の歌ととらま

尋山花 宰相公の言合

むさそぬ山とて風は書とて道よりあつとあむ

遠き花

くやもをぬのふきよんはむらむらと花はさく

水邊桜

りくきれ水よさめく梅はるる花は染れ沈みそ有る

さくさくは 言合

近は後やまぬれ流しよ約とめては良の根れととみ

おる一人の言合とて花はさく

おんそく後や我が身は海をよみんむらむらと花はさく

花 播列言合

梅花はさく感ちよ末よわおよふとらくゆそとさ

おあまの程とてつらと思ふもやうのりむらむらと花はさく

我宿れ花を飾りて思ふらんよ末の梅よとてつら

言よりむらむらの梅は深あふいぬらむらむらと花はさく

梅さく梅さくさく白きいぬらむらむらと花はさく

今日ゆくさる一あよあつとてのりむらむらと花はさく

人く白川乃花はさくさく一ふ歌花を院乃花

れ下よて言合

年よむらむらとて思ふ梅はさくさくさく花はさく



為花の公談 奇林苑より

春未だ我も世と花とを思ふ人より春未だ花とを思ふ人

秋林苑より花は春より秋より

大内乃様威の字でゆりよあれよ日小竹屋の

言ふる明日の雲と夜のおもひ井此様の人々も

逢榎実同花んと奇林苑より

老後見へ花

いふ一ふいほもくとも一は老して世は目も

あれはけや花もろく人我もては

りう方はあふきうこそ惜まれと花や之りて我とみる鏡

今いそ春の田面と立居る言は清行方と一と思

天津守ひとよあふ越の海乃波とてとゆらありの

湖上海原

ゆら鷹たるとり小つらつ河もあれ南より吹らあれ浦風



大納言之國の南無の花見よまのりてゆつて  
おらねとさるきてみぢうーとて使はる  
アふきりけりてこれ

あまのついで針あひいとある中よとゆつてとあつりせよ  
あー ーととと推してゆつりーきり

うらわつうと花あを熱いゆつゆつとみこくをゆめ  
八条院歡喜光院よあつーまゆつとつとつと  
咲く咲てゆつととつと花半開といふと  
くくうあゆーり

らりそて棟一棟見えゆつと一本咲あそ二本とつと  
地下中てゆつー母南無の梅さうりよ上達戸敷

上人あつて禁庭むれととゆつてゆつと

平色をわき井れゆつとゆつとあつとゆつと我あつと  
水上落花

ゆつとゆつとゆつとゆつと根を灰よ清る白雲  
落花

吹らゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつと  
お形ゆつと 梅寮と通舎

散とゆつと花れあふふ我あつとゆつとゆつとゆつと  
いまゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつと  
二条院乃ゆつと三月十日ゆつと行幸なりてゆつと  
れ梅さうりなりゆつとゆつとゆつとゆつとゆつと



とくくわふと作らるるしてゆへになほよむ  
まひ付くまのつらき物も

まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

丹後内侍

まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

舟船中見花

まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

谷榎

まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

榎と 孝経お后家秋合

まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
まのつらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

若花

山橋あつ絲かたつふ宿るるふと恨てもあんと  
三月十日あまのつらき物もつらき物もつらき物も

三月十日あまのつらき物もつらき物もつらき物も  
三月十日あまのつらき物もつらき物もつらき物も

三月十日あまのつらき物もつらき物もつらき物も  
三月十日あまのつらき物もつらき物もつらき物も

つらき物も

つらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
つらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

つらき物もつらき物もつらき物もつらき物も  
つらき物もつらき物もつらき物もつらき物も

註

〇廿



いひはらうてはきり

教はりの花はひびくとも今うら見入拂ていふとよん

あ

あはと風もあがせさうとつらあおとよ吹んた

春野

冬枯の野に影やを程うれは又子蕨を前出よき

折蕨遇友

あつとさ人あもあひぬ早蕨のわく我もあつとさ

花落客稀 言林苑舎

しんり程もあつとさ人のむらもあつとさ

水上落花

山様お母きりと六初瀬川末くむ里の人やとゆき

落花 梅家云通十首内

むられ泥りねとつらあひぬ我あつとさあも蕨乃白

あつとさと大内とて南敷のむれ下とて上達

ア敷上人よまれ

ふれ言あつとさあつとさあつとさあつとさあつとさ

古の花 伊賀入道舎

かへる海に沖行舟とさやあつとさあつとさあつとさ

あつとさあつとさあつとさあつとさあつとさ

あつとさあつとさあつとさあつとさあつとさ

か形 公家







夏

六夜中しては一時更衣の心とよみ侍

夏衣のとり乃多きかたりせは心れりわはしき侍

更衣 大納言実国守合

冬衣のとり乃多きかたりせは心れりわはしき侍

卯花

神さふはあもるねとて此本さひ小座の神遣はすよきり

暮見卯花 寺林苑とよ

あよもは卯花とて越わたりとれきく多ふれり侍

卯花 妻の経おれ家守合

卯花の通縁とてきりる月夜おれはしきとて布とてきりる

卯花隔水

うらむれり川の垣移よとねれかきかきと海の深さきり

夜に移り

うらむれり川の垣移よとねれかきかきと海の深さきり

旅宿郭云

長き思ひ事そよ観望いかりとておれらとてさき

月前卯花

照月の色をとりてうらむれ下板とのみと垣縁とてきり

田中卯花

乃やめさのうらむれと卯花とてきりる月夜おれはしきとてきりる

人待郭云

此

〇十三



子規啼のこゝろに人なき人なきやうなこゝろにありて

待杜鵑 云通ひすき金中  
魚もけり行くと人かたしんは可きけりかたしん

夏草  
男康少く夏草のまよふ影にまよふ影にありて

明使とれたる花のよあらし  
かここと我方のまよふ影にまよふ影にありて

竹風夜冷  
とれぬ夏草のまよふ影にまよふ影にありて

竹乃陰よまよふ影にまよふ影にありて  
長行のわらう涼よまよふ影にまよふ影にありて

待鳥と 云通ひすき金中

待きりて我をわらう影にまよふ影にありて

香とあて山杜鵑からくもて

鳴聲乃消えけりて郭云山よ方とありて

かよきひ鳴き遠よけりて

念佛は待郭と云ふ影にまよふ影にありて



白くくまきとやぞく降もあまふ又新くくや郭云うさ  
海海時鳥

鏡共よこころとらり郭云ふく白くくく時鳥と  
二位大進清輔家やましく後六月郭云時鳥と  
てくくくくく

くくくくく  
時鳥とくくくくく

深夜時鳥

くくくくく  
郭云 前昔傳經の家會

待りくくくくく  
夏草 同會

春こてくくくくく  
寝覚方子親の公とくくくくく

くくくくく  
郭云 法橋寺百首中

時鳥くくくくく  
世れ中とくくくくく  
雷云はくくくくく  
野徑子規 範通の家會



鳴るれう一乃言根の郭云云と云はれたるは勢も及を以  
びしむる所を搦かゆく言はれし情を以て  
さゆらね五月よりりて郭云の鳴もまは  
さゆらよやうんと云ひ

子規さけしやうじとれをや隣乃花れ指のこ  
や  
宰相中将

郭云共よまきしと程きまやと云はれし  
六月十日はよ子規れをまきしと云はれし別處  
へたれしと云はれし

ほとまきしと云はれし  
や

霍云くく梅と云はれし  
夕郭云

あふと又山崎よ紫れを  
さうと云はれし

あふとと云はれし  
月前郭云

あふとと云はれし  
山家時名 法住寺殿會

あふとと云はれし  
郭云粥稀

あふとと云はれし  
今さうよれまてと云はれし

上

〇廿六



五月雨乃に川よりうきくゆりせり秋は  
けしき月乃はつらつら大宮よ侍は  
らうねとやあつらうあつらうとけしき  
しつらうしき

あ

あま乃れはあまの月をうらやまうり  
雨のちふりしきあまの月をうらやま

魚橋董園 寺林院舎

うらやまの橋乃をうらやまの月をうらやま

盧橋董園 法住寺ぬき

あま乃れはあまの月をうらやま

五月雨

五月雨れ目とつらつらあまの月をうらやま  
六月十日は更恋郭云と云とつらつらあまの月をうらやま

あまの月をうらやまの月をうらやま

水風如秋

浦風乃吹上りて涼しきあまの月をうらやま

江上螢多 鳥羽院水面

あまの月をうらやまの月をうらやま

水鶏

あまの月をうらやまの月をうらやま











萩

我宿れ萩とくまきそとまきあき浅茅うまよ秋風を吹ハルキ

燂野

宮城野のむれ威よくらひいて音ふまう一萩とみよ

旅行用馬

猿ちちちれく独と思とと馬もや海と衆目とえき

霧隔行舟

とととりと小舟もみしてあまあう設計しそ音よ浪を縁

女郎花近水

浪もよひ川岸乃女郎む笑涙まこも流けりるらん

野徑眺望

〇廿九

くまきあとして人あう野に女郎む今うま花れ初くらん

茅むらんと 寺林苑言合

うり衣我とへきく一萩とけさ野に萩の花は征きて

月前草花 法住もぬ舎り

浪とあよ月や海とのまきれ萩とかこてあては女郎むむ

鹿 寺林苑舎り

まうくれ尺にあ男廉も書こつ輝とええとと悲ふりけれ

廉拜遠近 法住寺願舎り

いさう山嵐くともけり萩の庵に窓の前あも男廉等也

夜泊廉 寺林苑舎り

泊出て夜舟とこまき高砂乃尾上れ花の初まうまきえり

止

〇三十



秋花勝春む 範魚の家云

煉まて色面影ましくしつる花世の花色又て後そ花行

因餘秋月 法行の浄會

名小あうる月ハ二取とみよそてや今年ハ梅とれつる物便

麻拜何方 同

麻乃唱方ととえしそ空分孫今ハ年ととあつるりきり

争為紅葉 同

しそいゆつ人あも告てととたはよ立田れ山乃紅葉ととん

残菊失路 同

露まれく山流乃菊かうくうたう海よととそ梅ひよきり

古籬前萱

よるま切の海色と河まで刈るれれととくハ打外まきり

隣家晚萩

風もまは中垣あうく萩れととあそくれ時廿四せはつるか

待月

出ぬるら山乃あうるこみあひいん公わらとと月ととるこむ

月 法行の浄會

転もさうくさゆ月と山の場よととりはつるんをさるまきり

おるーんと

月清く今夜そとゆつ水底に玉藻よととくこのねえ

月得秋勝 友大の家會

ひらりとし秋乃為ととがさあもんたせとらととゆつ月歌



月 経蔵の寺合

妙法蓮華經の巻の巻清て在るはとてゆり月氣  
海色月

任吉れ松の海より月後と月夜かつらつら清山  
同 伴賀入道為業余

浦傳ひらふら松の陰よきて又濃色とて月とんか  
三井も歌合志ゆりもつらんくみりて月と  
よみゆりもつ

月法みよふら松の陰よきて又濃色とて月とんか  
月 小野文子  
杖乃歌も我ももつて又ぬれ傾月とてふもみり

八月十五夜

名母たつきは二夜と知りて先みつ月よきりし思  
かちふと 寺林義會

月をぬらぬれとて海にわつらふら松の陰よきて  
八月十七夜月つねよりと海をくみりて  
むらひの中將れとて

我々ももぬらぬれとて海にわつらふら松の陰よきて  
あ

七十年の秋よはひわつらふら松の陰よきて  
経蔵の巻の巻清て在るはとてゆり月氣  
かちふとよきり



新やとひみさし川乃高き又月とちと秋大降らん  
敦親任吉よて寄合し竹きりよ 社公月心と  
まらよ河ゆかんと作吾乃そ秋月よとまてやうゆ

月終夜友

立明乃月とち我とあしとて入るぬえよひつとそ思

雲間月

秋ととく遠るくそゆれきりきり雲よ秋の月と

清浦朝臣家子合よ月以

雲もあく山んくと又きたれは月ゆ今そぬえ思くぬ

月 芥林苑舎よ

くとりゆくあまころ宿よ秋の月とわふ月よんしあ

お形一公と

今秋あれす吹風と身よまて去那秋の月とそん境

月 重家つ寄合り

月新よしゆれぬとち思かん言ふるく所ありれ里人

海上見月 右大臣家舎よ

照月と雲かたそそそ秋舟漕我もよんふ鳥渡り

関路惜月 同

八月と昔よりとけいあゆめくはるは是柄の寄とそて

旅宿月

雨ふそ高ハ多し秋更科乃月よとらりてく秋とあぬ

九月十三夜 法住寺教舎







て乃原新月れつひよよひあまさうくちしれ乳  
同 右大元家云

落くぬ山乃落らうき月新のほほそ思ふわがあつるをり  
湖邊見月

僧坐て月をあつる人さほや志望はの浦ハ山のくり  
霜曉月

別よきんちりき井乃月新はれ一室の庭乃雲うれ  
海邊眺霧

貝かむし温干にぬてう那故女う海を若うしゆよりをり  
雨居霧深

芳かてらふ人ちり麻乃おむるれ本葉乃若りりそ

寄月述懐

ゆやうら月れえとらう人あて世母少う道とあつるいをか  
月照巴屋 寺林菫云

あつるちりちり寄れさうれがうしあてを月みいかり  
花んとりゆにぬすれ月とらふ事とんいさう  
ゆりしに

孫ひとらと今やゆきしやう乃上月とらふいさうれぬが  
遍照寺八月と思ふ

いあつる人ちりし新あて月れすうう廣海乃池  
草花 経蔵の寺合

おとてお花とらちち舞の舞ふとらとあつるいさうか



女郎花

一りやとてあてそとら 女郎はふと花ららるゝとて  
かきつれいといこれの世に女郎はあはれなる花とてあはれ

雨中鹿

あまのこらふらふとてれとて鹿の上もれ早やうこれらう

菊花待用

あうーれ内乃も内乃とて後にお菊とてあはれらうとて  
大納言も実をうらなうとて菊とてあはれらうとて  
うはむい付てや

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あ

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて  
あはれらうとてあはれらうとてあはれらうとてあはれらうとて

冬

時雨

上

三十一



山吹くろきり下也ぬめくんとそれく山とめぬとく也  
お形一 隆行の家令合

吾きりく長ととせやととくんととく下お海ぬとてきり  
行路時ぬ

暗くとり西ぬとく日苦徳ぬ法と米交約とくし人

月前残菊

月とみよ常よの仙とせ世中し話とく方とて白くぬきり

残菊

白菊ぬ又さけりくともとくもはぬおれ下しとくぬきり

月照山雪 左大臣家令

積りきり雪計くふふらとく月ととくくぬ中し

冬月

神きて風くぬ月とれも梢とるもとくぬきり

お中一 経蔵の令合

月影と凍るはつ池も乃ぬと下やのうらとく人

月前水鳥

池ぬり月乃きよとくぬれし海つぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

水上落葉 小白川云

谷川乃く木の橋とせれとくくんとぬれぬぬぬぬぬぬぬぬ

故郷落葉

木葉ぬとぬぬの都れを乃面ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

落葉



新田姫栂と深かられる井の文とありては所らるるまきり  
おのり ち林苑合書

梢より一葉と見えて大荒木社の下まお葉のひきり  
落葉入簾中

木葉<sup>吹</sup>の風やふとをりまうはくぬあふ花は枝に  
大井川をりて水上落葉とあり

木末少をりてお井園よりわづ川乃枝あを丹葉とよ  
水上落葉

今やふ山の木葉もわづしと新田の川乃文付るまきり  
葉花渡水 飛燕痴書

龍田川吹の風と約てくぬあふ花と神よりまきり

山路落葉

仁和らてくちうまのり

木葉お山はれ石とてぬとと相りてる多ゆれまきり

紅葉陽池

飛燕痴書

かひまは池のほとこの紅葉ゆびりり人やおとせん

陽台紅葉

お葉ととふよりゆりや葛城の神乃志橋海にそせ

落葉野馬

飛燕痴書

木葉らる宿をたのむの板庇くおおおと果を

於法位ちぬ院御然形信向くて合せられ

山路落葉

那いふまき青葉とてくちとぬあふ花のく白川の冊







雪すう離る竹れきのこをみくこれとあまうしき

雪埋推路

雪はとら山はゆふ山人をゆるる凡本とあふぬとあ思

雪中雁鳥狩

御精千ら雪とやい雪れ溶おれ山あふらびうしはは  
枝れせし葉のさ枝とほほてゆららるる雪はゆふいぬ

晩以鷹狩

奇林苑

くまおとくゆの野もよりまをれ羽音くうらふらわうた

待初雪

ゆふれはる雪もつとんと雪のあふるあふるあふるあふる

社以雪

あられ入る西宮行合

志の内の小の雪とよみ下消わうしれ雪とやうし

旅雪 云通つ十首

舟とく次角田の舟はゆふ雪れあふゆふ雪都もろり舟

連日雪

宰相入る方合

あふる雪りの雪れ終る終るゆふ雪目の雪の雪うし

雪

今朝もれふ小形山向山をいさあわらぬれ雪の雪をさ

雪はとらあふら山風吹おし松系松のりく雪をさ

雪うれれ何あふる方とく雪の雪の雪の雪の雪の雪

曉雪

志ひあゆらん流もろりしりくしれあふる雪の雪の雪

社

雪



言れ少くゆく初に花並乃りよらり  
山里乃宮と独らるゆらきふ君やらゆらん我やゆき  
あ

君もやとてうかすこは宮を打拂つて我をゆき  
寄水速懐

わまるやわさ川なれうそ氷じつは流氷も  
氷

をば氷はけらわゆかさ茶の池の上と小鴨乃やとてあ  
あらん乃りともりゆらとておよ出らよ言れ少くゆ  
しはなとくりやはらうあ

初まて沈言あみかてせくわら又らん詠とらんやうと  
あ

あ

雪の白よ又あん詠と初めとんととていふとゆらうと

歳暮

かうつきの我身と年と言果てあつとあつた言のうと

賀

よらとひ乃を言くよみゆらう

君代らる君乃鹿れさ乳石乃糖れぬら君よ影るあて

おれ

君代と何よあよんともと果るとあわあふとあ



禁中祝ふと三條院の御内人よかんりてとめり  
昔よりとまじりて若しの山なれと君代あそびとくわ  
経威つが美彦よそ今今一作りとらよ集りして  
彼乃んといふゆあり

芥乃柄とくひ仙の御集てとらとと君代世とくわじ  
捕政殿下用流しとくせ好して始而作文和歌  
今せよあはれひよあそび乃内よめされて射松争  
齡とつよととはくまらわ

春乃月日用よそと君代の面れ松乃子幸ふ君ととめり  
庭松  
あそびと我とみよと君代乃ひと近く松とらん

祝  
君代乃あそびと精と子あまそ他とてと松やありあん  
寄松祝ふと 寺林荒舎

行年乃皆とりの流れと海松と君とあらひよあらわあは  
祝 二条院所内女房よりつて  
あそびと君とみよと海とあはれとあそびと世と

別  
敷頼はつまらととあそびとあそびとあそびとあそびと  
あそびとあそびとあそびとあそびとあそびとあそびと







我も山を思ひよりあつ折れ舟もさし世に握くさあ  
膝乃心哉 弁林苑より  
とく折れ乃方れ山よ又いほむひて折むとさらん

哀傷

二条院く乳をせり海も好御めれと  
言乃之位がとく身ゆりあときく女房  
任つるもとつらう  
愛乃よ別一あつ折れめせと方めあはれと鳴ん  
かろ

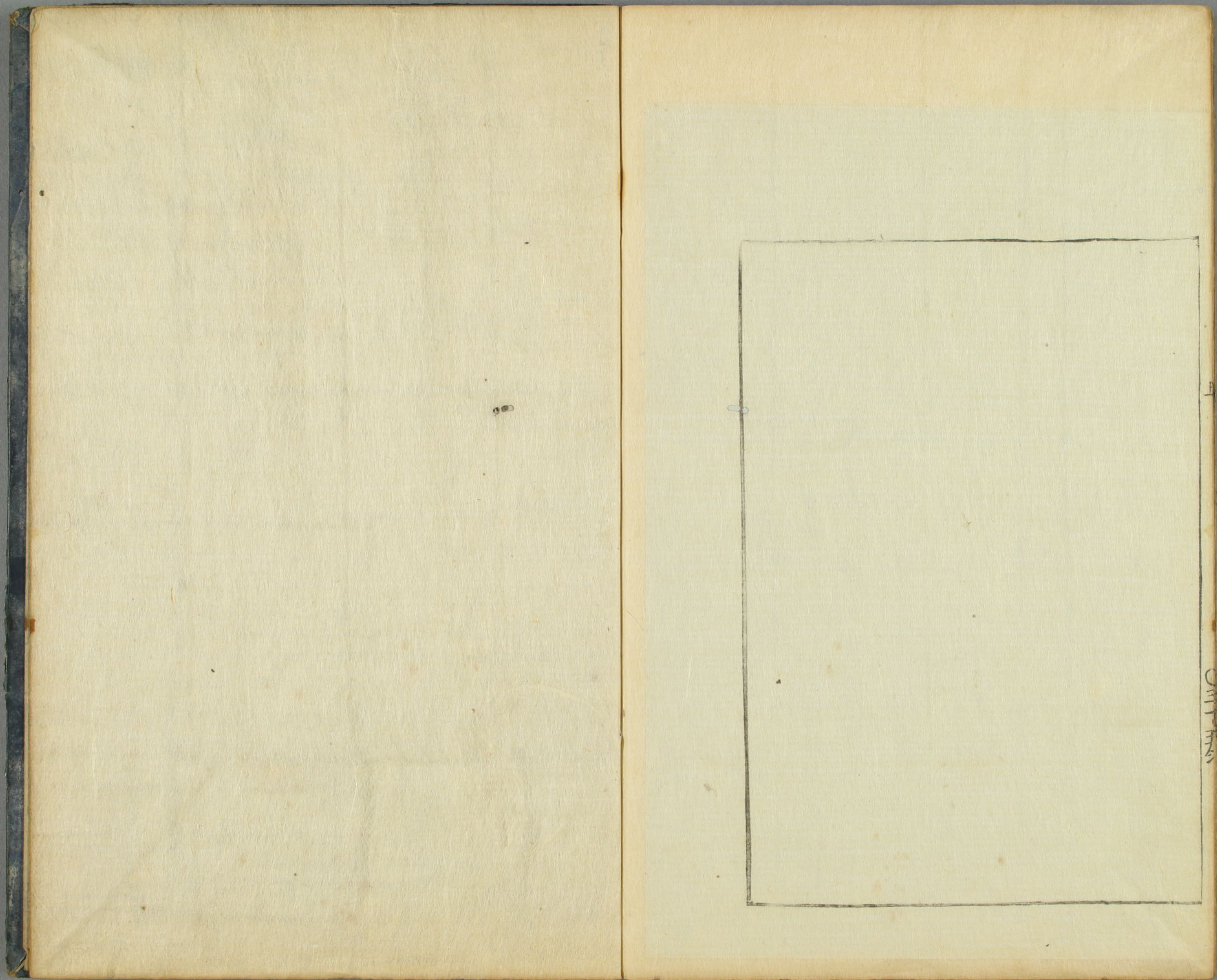
別一 愛乃の院あつ折れ海も好御めれと  
言乃之位がとく身ゆりあときく女房  
任つるもとつらう  
愛乃よ別一あつ折れめせと方めあはれと鳴ん  
かろ

上









三十一



